

そのときどうする？ 防災教育の取り組みについて

名古屋市立工芸高等学校 都市システム科 教諭 五藤祐司
名古屋市立工芸高等学校 都市システム科 2年 藤松海渡

1 はじめに

本校は名古屋市立工芸学校として大正6年に創立され、まもなく100周年を迎える歴史のある学校である。都市システム科、建築システム科、インテリア科、デザイン科、グラフィックアート科、電子機械科、情報科の特色ある7つの学科があり、多くの卒業生がエンジニア、デザイナーのスペシャリストとして企業の第一線で活躍している。

在校生も全国を飛び回って、ものづくりや創作活動に積極的に挑戦し、技能五輪国際大会に2大会連続で日本代表に選ばれるなど活躍している。

2 取り組みの経緯

近年、日本では、東日本大震災をはじめ、広島土砂災害、御嶽山の噴火等の自然災害が多発しており、多くの方が被災している。

本校では、2011年東日本大震災を受けて、生徒、教員に防災、減災に関する意識が高まり、工芸高校として何ができるのかを考え、平成24年度より課題研究で取り組みを始めた。平成26・27年度、愛知県高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」に参加し、活動が本格化した。また、平成27年度、内閣府主催「防災教育チャレンジプラン」に採択された。

3 「高校生防災セミナー」

自然災害に対する知識や技術の習得による防災対応能力の向上と災害時に活躍できる防災リーダーの育成を目的とした、高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」に第V期校として、4名の生徒が参加した。名古屋大学減災館での防災に関わる講義やDIG、HUGなどの演習を受け、工芸校として2つのテーマを持って取り組んだ。

取り組みのテーマ①

明日のために

～生徒一人ひとりと学校のスキルアップを目指して～

防災に関する知識や技術を高め「助けられる側」から「助ける側」の人間を目指して取り組んだ。

(1) 防災サポーター募集

防災講話時に、全校生徒に向けてセミナーの報告会とサポーター募集ポスターを作成した。

(2) 文化祭 防災ブース設置、運営

本校文化祭において、起震車体験と東日本大震災パネル展示を行った。

(3) 工芸高校災害時活用備品ガイドブック

各工業科に災害時に活用できる備品の調査を行い、ガイドブックを作成した。



文化祭 起震車

取り組みのテーマ②

「つなぐ」

～地域、企業、役所、学校の連携を目指して～

地域、企業、役所、学校が連携し、ともに助け合い協力しあうことの大切さを学び、地域と共に生きる素晴らしさを体験することを目的に取り組んだ。

(1) キッズ防災ボランティア

近隣の児童館で開催された防災フェスティバルにボランティアスタッフとして参加した。

(2) 宿泊型防災訓練参加

名古屋市教育委員会主催で行われた宿泊訓練に参加し、避難所設営、運営、AED訓練等を行った。

(3) 災害かまどベンチ製作

常時はベンチ、災害時はかまどとして活用できるベンチを、近隣小学校に製作し、寄贈した。

(4) 近隣小学校合同防災訓練

災害かまどベンチ製作を行った小学校において、PTA、区役所、上下水道局と連携して防災訓練を開催した。



宿泊訓練



防災訓練 炊き出し

効果と課題

生徒達は企画段階から関係機関と打ち合わせに参加し、高い意識を持って、一つ一つのイベントに取り組むことができた。

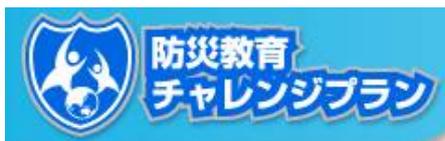
生徒達は地域、企業、役所、学校が連携して一つの企画を作る難しさ、大変さにもぶつかりながらも、楽しさを感じ、防災リーダー、防災サポーター共に、防災、減災に関する知識や技術、地域と共に生きる助け合いの心など多くの事柄を身につけることができた。

今後もこの取り組みを継続、発展させ、工芸高校生を始め、教員、地元地域の住民など多くの人たちに防災、減災に関する知識、技術、考え方を広めていかななくてはならない。

4 「防災教育チャレンジプラン」

いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害にあった時、すぐに立ち直る力を一人ひとりが身につけることを目的とした「防災教育チャレンジプラン」に採択された。

「つなぐ」～地域、企業、行政、学校の架け橋を目指して～をプラン名に掲げ取り組みを行っている。



取り組みのテーマ①

都市システム科において、工業科目「実習」の1テーマに「防災実習」を3学年全てに取り入れた。災害時、自分の命は自分で守る「自助」の意識と、自分の住む街・地域は自分たちで守る「共助」の意識を高め、自ら考え、行動できる生徒の育成を目指して、平成27年度より取り組みを開始した。

防災実習を通して「限られた材料で、必要なものをつくる力」「自分の思いを相手に適切に伝える力」「地域と連携し、協力する力」を身に付け、適切な判断と行動をとる知識と技術を習得することを目的に防災教育に取り組んでいる。

1年生（3時間×6）

1. ガイダンス、防災講話（東区役所防災担当者より）
2. 調べ学習（災害の種類、歴史など）
3. 液状化実験、紙ぶるる
4. CROSS ROAD
5. 校外見学（雨水調整池見学）
6. まとめ、発表、討論

2年生（2時間×6）

1. ガイダンス
2. CROSS ROAD
3. 校内危険箇所、安全箇所の検証
4. 校内ハザードマップの作成
5. 校内ハザードマップの作成、まとめ
6. 発表、討論

3年生（2時間×8）

1. CROSS ROAD、簡易トイレ・間仕切り組立
2. 避難所HUG①
3. 避難所HUG②
- 4～7. 防災総合実習
8. まとめ、発表、討論取り



CROSS ROAD



簡易トイレ組立

組みのテーマ②

宿泊型避難訓練の開催

地域住民、企業、行政、生徒、教員を対象とした1泊2日の宿泊型避難所設営、運営訓練を11月上旬に本校で行う予定である。また、工芸高校7つの学科の特色を活かして、簡易ベッド製作、簡易排水工事、サインディスプレイ作成等ものづくりワークショップ開催し、地域の方々にもものづくりの素晴らしさを体験していただく予定である。

5 おわりに

教育は最大の防災対策である。生活を送る上で、災害に遭わないことが最良である。しかし、災害大国日本で自然災害とどのように向き合っていくか、もし災害に遭った時にどのような行動をとれるのか、その事を防災教育で伝えていくことが課題であるといえる。

最後に、防災教育等様々な活動を通して、新たなまちづくりに挑戦し、社会で活躍、貢献できる技術者の育成を目指さなければならないと考える。